

特別展「日本の色 吉岡幸雄の仕事と蒐集」

会期2021年1月5日(火)～5月9日(日)

《前期:1月5日(火)～2月21日(日) 後期:2月23日(火・祝)～4月11日(日) 延長:4月14日(水)～5月9日(日)》

1)本リストは必ずしも展示順と一致しません。2)作品の状態により、予告なく展示作品が変更になる場合があります。ご了承ください。3)※は展示替・頁替え作品 4)**はケース外展示

第1展示室

祈りと荘厳の色彩						
薬師寺の修二会「花会式」 幡 / 桜・桃・百合・杜若 造り花						
薬師寺の伎楽装束 ※						
前期	治道	じどう	太宗皇帝	たいそうこうてい	古舞楽(1)	こぶがく
	古舞楽(2)	こぶがく	三蔵法師	さんぞうほうし		
後期	婆羅門	ばらもん	古舞楽(3)	こぶがく	太宗皇帝	たいそうこうてい
	三蔵法師	さんぞうほうし	古舞楽(4)	こぶがく		
延長	三蔵法師(小)	さんぞうほうし	古舞楽(2)	こぶがく	太宗皇帝	たいそうこうてい
	古舞楽(3)	こぶがく	婆羅門	ばらもん		
東大寺の修二会「お水取り」 椿 造り花 / 二曲白屏風						
東大寺 大仏開眼会と正倉院宝物						
通期	紫地鳳凰文錦	むらさきぢほうおうもんにしき	紫地入子菱平地浮文綾紫衣	むらさきぢいりこびしひらぢうきもんあやしえ		
	遠山文七条袈裟	とおやまもんしちじょうけさ				
東大寺の伎楽装束 ※						
前期	婆羅門	ばらもん	呉公	ごこう	呉女	ごじよ
	迦楼羅	かるら	縹地花樹双鳥文夾縹幡	はなだちかじゆそうちょうもんきょうけちばん	酔胡王	すいこう
	楽隊	がくたい	五色の縷**	ごしきのる	開眼の筆**	かいげんのふで
後期	力士	りきし	呉女	ごじよ	縹地花樹双鳥文夾縹幡	はなだちかじゆそうちょうもんきょうけちばん
	呉公	ごこう	迦楼羅	かるら	呉女	ごじよ
	金剛	こんごう	五色の縷**	ごしきのる	開眼の筆**	かいげんのふで
延長	呉女	ごじよ	力士	りきし	呉公	ごこう
	金剛	こんごう	酔胡王	すいこう	縹地花樹双鳥文夾縹幡	はなだちかじゆそうちょうもんきょうけちばん
	五色の縷**	ごしきのる	開眼の筆**	かいげんのふで		
法隆寺伝来裂						
通期	四騎獅子狩文錦 / 幡	しきしかりもんにしき / ばん	※国宝 四騎獅子狩文錦(法隆寺蔵)の復元			

第2展示室

王朝文学の色			
襲(かさね)の色目 ※			
通期	かさね色屏風	前期:春(3面)	後期:春(3面) 延長:春・夏・秋・冬・通年(9面)
源氏物語の衣裳			
前後	桐のかさね	花の紫【紫根】・葉の緑【蓼藍×黄檗】	
通期	藤のかさね	花【紫根と白平絹】・葉の緑【蓼藍×黄檗】	
	桜のかさね	直衣 花の丸紋生絹【紅花】/下襲 葡萄染(したかさね えびぞめ)【紫根×茜】/指貫 香色【丁子】	
延長	絵合		
	左方の童	さほうのわらわ	桜襲の汗衫(かざみ)【蘇芳の赤に紋紗を重ねた桜色】 紅に藤襲の裃(あこめ) 藤の織物【経糸:蓼藍生葉×刈安 緯糸:紫根】/白平絹 / 紅【紅花】
	冷泉帝	れいぜいてい	麴塵(きくじん)の袍【紫根×刈安】
	右方の童	うほうのわらわ	山吹襲の裃(あこめ)【支子】/青色の柳の汗衫(かざみ)【蓼藍×刈安・白平絹】
延長	幻		
	七夕(たなばた)	〈笹の節句〉	蘭玉、生糸 みすや針、六色染布、梶の葉、総糸(かせいと)、糸巻
	重陽(ちょうよう)	〈菊の節句〉	菊、被綿(きせわた)、茱萸袋(ぐみぶくろ)、屏風

第2展示室

通期	蘇芳(すおう)のかさね ※	単【白絹】/桂 七宝紋紗【蘇芳】 後ろ⇒正面	
	桜のかさね	桂(うちき)【紅花】/細長【生絹(すずし)】	
	衣配り(きぬくばり)		
	空蟬	うつせみ	青鈍(にび)【蓼藍(たであい)×檳榔樹(びんろうじゅ)】/ 聴(ゆる)し色【紅花】/ 梔子(くちなし)【支子×茜】
	明石の姫君	あかしのひめぎみ	桜の細長【生絹(すずし)・蘇芳(すおう)】/ 搔練(かいねり)【紅花】
	明石の上	あかしのうえ	白き桂【紋綸子】/ 濃き【紫根(しこん)】
	紫の上	むらさきのうえ	葡萄染(えびぞめ)【紫根】の小桂(こうちぎ)に今様色【紅花】
	末摘花	すえつむはな	柳の織物【蓼藍×刈安】
	玉鬘	たまかすら	赤き桂【茜】/ 山吹の花の細長【支子(くちなし)×茜】
	花散里	はなちるのさと	浅縹の海賦(かいふ)の織物【蓼藍】/ 濃き搔練(かいねり)【紅花】
濡標(みおつくし)** 平安朝官位の色九種一覧	一位の色 深紫(こきむらさき)	【紫根(しこん)】	
	二位の色 浅紫(あさむらさき)	【紫根(しこん)】	
	三位の色 浅紫(あさむらさき)	【紫根(しこん)】	
	四位の色 深緋(こきあけ)	【茜(あかね)】	
	五位の色 浅緋(あさあけ)	【茜(あかね)】	
	六位の色 深緑(こきみどり)	【紫根×刈安(しこん×かりやす)】	
	七位の色 浅緑(あさみどり)	【蓼藍×刈安(たであい×かりやす)】	
	八位の色 深縹(こきはなだ)	【蓼藍(たであい)】	
	九位の色 浅縹(あさはなだ)	【蓼藍生葉(たであいなまは)】	

神に捧げる 季節の彩り

石清水八幡宮 供花神饌(きょうかしんせん)						
通期	水仙	すいせん	椿	つばき	南天	なんてん
	菊	きく	梅	うめ	竹	たけ
	松	まつ	牡丹	ぼたん	橘	たちばな
	桜	さくら	杜若	かきつばた	紅葉	もみじ

五節句

前後	人日(じんじつ)	〈七草の節句〉	紅白梅、餅花(もちばな)、曙染布、春の七種、髭籠(ひげこ)、根引き松
前後	上巳(じょうし)	〈桃の節句〉	布額、花雛、合せ貝、糸巻
前後	端午(たんご)	〈菖蒲の節句〉	杜若、薬玉(くすだま)、藍 光屏風
前後	七夕(たなばた)	〈笹の節句〉	繭玉、生糸 みすや針、糸巻棚、六色染布、梶の葉、総糸(かせいと)、糸巻
前後	重陽(ちょうよう)	〈菊の節句〉	菊、被綿(きせわた)、茱萸袋(ぐみぶくろ)、屏風

古香庵展示室

染料(1) 通期	紅花	べにばな	支子(梔子)	くちなし
	蓼藍	たであい	黄檗	きはだ

『日本の色』辞典色標本屏風** 前期: 茶系、黄系、緑系、青系、紫系、赤系 | 後期: 青系、緑系、黄系、茶系、黒・白系、金・銀系 | 延長: 茶系、黄系、緑系、青系、紫系、赤系

染料(2)	前期: 紫草(紫根)	むらさきそう(しこん)	通期: 刈安	かりやす
	前期・延長: 矢車	やしや	後期・延長: 蘇芳	すおう
	前期・延長: 日本茜	にほんあかね	後期: 檳榔樹	びんろうじゅ
	前期・延長: 胡桃	くるみ	後期: 安石榴	ざくろ

吉岡幸雄と紫紅社 **

通期	『伝統の染和紙』※	吉岡常雄著	1977年 紫紅社
	『天然染料の研究 理論と実際染色法』※	吉岡常雄著	1974年 光村推古書院
	『小紋手鑑』※	吉岡常雄著	1973年 紫紅社
	『縞帳』※	吉岡常雄著	1974年 紫紅社

第3展示室

古裂の美—いにしえをたずねて

正倉院裂 ※		7～8 世紀		
前期	赤輪違い文縹縹薄絹	あかわちがいもんこうけちうすぎぬ	赤絶	あかあしぎぬ
	黄亀甲文綾	ききっこうもんあや	赤菱文羅	あかひしもんら
	茶蝶花文摺絵絶	ちやちようかもんすりえあしぎぬ	黄花文夾縹絶	きかもんきょうけちあしぎぬ
	緑小菱文綾	みどりこびしもんあや	経錦	たてにしき
	薄茶摺絵麻	うすちやすりえあさ	赤七曜文縹縹絶	あかしちようもんこうけちあしぎぬ
後期	縹絶	はなだあしぎぬ	白夾縹絶	しろきょうけちあしぎぬ
	緑雷文綾	みどりらいもんあや	赤花文夾縹羅	あかかもんきょうけちら
	縹菱文羅	はなだびしもんら	黄綾	きあや
	緑花文縹縹絶	みどりかもんろうけちあしぎぬ	赤絶	あかあしぎぬ
	法隆寺裂 経錦(蜀江錦)	ほうりゅうじぎれ たてにしき(しよっこうきん)		
延長	紫緞	むらさきしじら	赤綾	あかあや
	緑菱繫文綾	みどりひしつなぎもんあや	緑絶	みどりあしぎぬ
	白絶・縹縹絶	しろあしぎぬ・ろうけちあしぎぬ	白襪文縹縹絶	しろたすきもんこうけちあしぎぬ
	黄山形文綾	きやまがたもんあや	浅緑菱文綾	あさみどりひしもんあや
	縹縹綾・浮文羅・緯錦	こうけちあや・うきもんら・ぬきにしき	経錦	たてにしき
	広東裂(経緞)	かんとうぎれ(たてかすり)	黄菱文羅	きひしもんら
	黄夾縹羅	ききょうけちら	黄花文縹縹羅	きかもんろうけちら
通期	「延喜式」※	「えんぎしき」 / 50巻のうち巻14 / 原本 延喜5(905)年～ / 写本 19世紀		
「古代印度更紗裂」※		こだいいんどさらさきれ / 赤星家旧蔵 / 99枚のうち / 木綿 / 17～18世紀 「手」「更紗」は江戸時代からの呼称。「文」は、特に江戸時代からの呼称がないため、今回付けた呼称。		
前期	いちご手	銀杏(いちよう)手	銭手(和更紗)	縹更紗
	笹蔓手	銭菱(ぜにひし)手	紋尽手	獅子手
	ご丸文	ガク手	蓮池に鳥魚文	撫子襪(なでしこたすき)文
	獅子手	笹蔓手		
後期	五徳手	銀杏(いちよう)手	笹蔓手	蓮池に鳥魚文
	紋尽手	金更紗	縹更紗	いちご手
	亀甲文手	撫子襪(なでしこたすき)文	網手	銭菱(ぜにひし)手
	銭菱(ぜにひし)手	獅子手		
延長	人形手	花鳥文	華焰文	段花鳥文
	揺花文	木の葉文	花鳥文	千筋花菱文
	鹿手	鳥手(松に小鳥)	唐花手	縹更紗
	銭菱(ぜにひし)手	胡麻手	段更紗	栗鼠手
前後	かさね色目帖 ※	かさねいろめちよう / 各種 / 19世紀		
前後	竹と鞠挟みに楓文様小袖裂	たけとまりばさみにかえでもんようこそできれ / 練貫地 絞り・刺繍・摺箔 / 17世紀		
	獅子に唐花文様裂	ししにからはなもんようきれ / 2枚 / 綸子地 絞り・刺繍 / 17世紀		
	菱に桐竹文様下襲裂	ひしにきりたけもんようしたがさねきれ / 綾地 絞り・刺繍 / 17世紀		
	網代に桜花文様小袖裂	あじろにおうかもんようこそできれ / 綸子地 絞り・刺繍 / 17世紀		
	風景文様茶屋染帷子裂	ふうけいもんようちややぞめかたびらきれ / 麻 / 19世紀		
	熨斗目	のしめ / 裂3枚・小袖2領 / 19世紀		

第3展示室

通期	古裂帖 ※	こぎれちよう / 旧野村コレクション / 1帖 / 17~19世紀
延長	葵紋裂	あおいもんきれ / 綸子地・絞り・墨描き / 16-17世紀
	沢潟に葵模様小袖裂	おもだかにあおいもようこそできれ / 平絹地・白上げ・友禅染 / 18世紀
	稲束に葛模様小袖裂	いなたばにつたもようこそできれ / 綸子地・白上げ・摺匹田・刺繍 / 18-19世紀
	鶴菱に伏蝶丸模様小袖裂	つるびしにふせちようのまるもようこそできれ / 綸子地・絞り / 18-19世紀
	貝桶模様小袖裂	かいおけもようこそできれ / 綸子地・絞り・刺繍 / 18-19世紀
	染分け梅に菊模様小袖裂	そめわけうめにきくもようこそできれ / 縮緬地・白上げ・友禅染 / 18世紀
延長	撫子に双六模様袱紗	なでしこにすごろくもようふくさ / 縹子地・刺繍 / 17-18世紀
	宝尽くし模様袱紗	たからづくしもようふくさ / 縮緬地・友禅染・刺繍 / 18-19世紀
前後	「革手鑑」 ※	「かわてかがみ」 / 津軽藩伝来 / 2帖 / 19世紀
延長	「古染革裂鑑」	「こそめかわきれかがみ」 / 1帖 / 12-18世紀
前後	『玄圃瑤華』	『げんぽようか』 / 伊藤若冲画 / 1帖 / 紙本拓版 / 18世紀
延長	古裂ネクタイ	こぎれねくたい / 野蚕絹・古渡更紗 / 3本 / 18-19世紀
前後	唐花文様金雲母更紗 ※	前期: 円形 からなもんようきんきらさらさ / インド / 木綿地 / 18世紀
		後期: 方形 からなもんようきんきらさらさ / インド / 木綿地 / 18世紀
延長	几帳模様小袖裂	きちょうもようこそできれ / きちょうもようこそできれ / 綸子地・絞り / 17世紀
	滝に立波模様小袖裂	たきにたつなみもようこそできれ / 綸子地・絞り / 17世紀
通期	芭蕉布	ばしょうふ / 板締め / 藍・刈安

染司よしおか 〒605-0088 京都市東山区新門前通大和大路東入西之町206-1 <http://www.sachio-yoshioka.com/>

細見美術館
 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
<http://www.emuseum.or.jp>